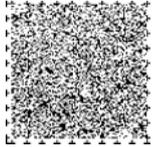


社会福祉法人 創文会
相談支援事業所 ハートピア出雲 情報誌「トピア」



<発行所>
相談支援事業所
ハートピア出雲

〒693-0014
出雲市武志町 693-6
Tel: 0853-2 3-2 7 2 0
Fax: 0853-2 3-2 7 2 1
E-mail shien@heartpia.or.jp
ホームページ
http://www.heartpia.or.jp

第52号

島根県広報からのお知らせです。
新型コロナウイルス感染症情報
※最新の情報はお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。島根県広報

令和2年4月16日付け山陰中央新報の島根県広報から 抜粋しました。

- 引き続き、手洗いや咳エチケットを心がけ、「三つの密」（密閉空間、密集した場所、密接した会話）を避けましょう。
- 外出自粛要請をされている地域（特に緊急事態宣言の対象となった都府県）への不要不急の往来を控えてください。
- 繁華街の接客を伴う飲食店等への出入りを当面控えてください。



以下の症状がある方は、医療機関を受診する前に、各保健所に設置している「帰国者・接触者相談センター」にお電話ください。

【新型コロナウイルス感染症が疑われる症状】

- 風邪の症状や37.5℃以上の発熱が4日以上続く（解熱剤を飲み続けなければならないときを含みます。）
- 強いだるさや息苦しさがある

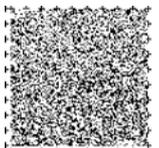
※持病がある方、高齢者の方や妊婦の方は重症化しやすいため、早めにご相談ください。

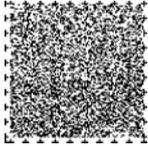
感染された方やその家族、治療にあたった医療関係者、海外からの帰国者、外国人等に対して不当な差別、偏見、いじめ等があってはなりません。また、不確かな情報の拡散は人権侵害につながる可能性がありますので、正しい情報に基づいて冷静な対応をお願いします。

新型コロナウイルス感染症の拡大に便乗して何かを買わせようとする商法に注意が必要です。すぐには契約せず、怪しいと感じたり、不安に思ったときは、消費生活センター等にご相談ください。



- 新型コロナウイルス感染症情報・・・・・・・・・・・・・・ 1 p
- 強度行動障がいへの対応・・・・・・・・・・・・・・ 2 p
- 医療的ケア児等コーディネーター養成研修に参加・・・・・・・・ 3 p
- 新人紹介&苦情解決対応報告・・・・・・・・・・・・・・ 4 p





放課後等デイサービスで

強度行動障がいへの対応で大切にしていること



11月22日に出雲市のパルメイト出雲でありました強度行動障がい支援者養成研修（フォローアップ研修）で実践報告をさせていただきました。

強度行動障がいとは、「直接的な他害」、「間接的な他害」、「自傷行為」が非常に多い頻度で見られ、通常的环境下では対応が非常に困難な特性を持つ方のことをいい、その背景としては周囲からの様々な刺激が本人に入ってくる事への物事の理解やその処理が上手くできないことと、物事を伝えたいが上手く伝わらないことや、伝える手段がないことなどが主な原因としてあります。

当日は県内外から5件の実践報告があり、児童分野ではハートピア出雲スマイルが実践報告をさせて頂き、児童期から成人期に向けて学齢期に実際に取り組んでいることを報告させていただきました。報告の内容は、現在ハートピア出雲スマイルの放課後等デイサービスでは強度行動障がいの対象となる方のご利用はありませんが、日々の療育の中での工夫点やどのように支援を行っているのか、また大切にしていることについてです。

中でも大切にしていることは、「行動の自立」、「本人の意思決定」、「自発的な要求」についてです。

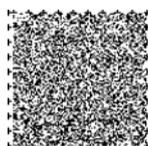
「行動の自立」では、見通しを持って行動出来ること、「本人の意思決定」では自分で活動などを選択すること、「自発的な要求」では自分の要求を伝えることもですが、支援を受けても良いことを知ってもらい、支援を受けて過ごす時に実際にどのように支援を行っているのかを紹介させていただきました。

これら3つの事は、大人になっていく子どもたちに本人の人生を誰かに決められて過ごすのではなく、自身で選択し本人の望む生活の実現に向けて取り組めるように支援をしています。

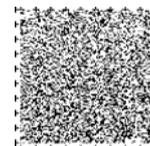
今回の実践報告をされた方々の中で共通していたこととしては、ご利用されている方の特性や行動の背景をしっかりと知っていく事の大切さと、そのことの情報を共有すること、またライフステージが変化した際にも次の場所へ引き継いで連携を行っていくことが大切であることを改めて実感しました。

現在ハートピア出雲では、幼児期から学齢期に移行する際には保護者の方などと一緒に作成したサポートブックを学齢期に引き継ぎ、学齢期から先へは本人さんと一緒に支援者が作成したプロフィールブックという支援ツールを活用しています。今後もご利用されている方が安心して次のステージへ移行出来るようにハートが途切れないユートピアを目指していけたらと思います。

(文：児童発達支援管理責任者 高尾 真也)



島根県医療的ケア児等コーディネーター養成研修に参加して



12月3、4日と1月9、10日の4日間島根県医療的ケア児等コーディネーター養成研修に参加してきました。今まで他県では研修を行なっていましたが、今年度から島根県でも研修が行われるようになりました。

初日はDrや看護師さん等が講師で「福祉の成り立ち」から「医療行為とは」「重症心身障がい児とは」等基本的なことを確認していくような形で講義がありました。

2日目は「実際の現場からの話し」や、「親の思い」、「医療と福祉、教育との連携」等実際に現在行っているコーディネーターの仕事の内容についての話でした。現在島根県には養成研修の講義を受けて専門的に仕事をしている人は少ないと思いますが、内容的には相談支援専門員が行なっている、本児、家族への関わり、医療との連携、福祉サービスや福祉用具の充実等が中心に講義がありました。

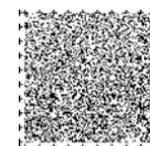
3、4日目は実践ということで、事例を基に本児、家族の想いを引き出してから、今後の計画等の作成に向かっていく練習を行ないました。

今回の講義を受けて、医療的ケアが必要な子どもさん、重症心身障がい児と言われる子どもさん、その家族、皆が不安でいるということだと思えます。家族は家庭でできる医療行為を学んだり、本児の発達や成長についても気にしていかないとはいけません。兄弟の成長についても考えていかなければなりません。

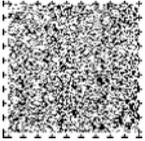
コーディネーターの関わりとしては、その不安が一つでも解消できるような関わりが必要であると感じました。しかし、ひとりのコーディネーターですべてを支えていくことは難しいと思います。それぞれの得意分野を集めてチームを作ることが必要です。医療的ケアについては主治医や看護師、保育や教育の事については保育士や教員、行政関係の申請については保健師さん、療育関係については相談支援専門員や児童発達支援管理責任者など、様々な専門家がひとつとなり、本児の成長や発達を診ながら、家族の支えとなって関わっていくことが大切です。

また、本児が家庭で生活するということは、本児が元気なことはもちろん、家族も元気でいなければならないということです。家族が元気でなければ生活は成り立ちません。家族が元気に生活するために支援者が支えていくことも必要なのです。

医療的ケア児のコーディネーターとは本児の事はもちろん、家族の事、身体の話、生活の話、保育や教育、連携の話などなど、コーディネーターとしてあらゆる場面でも見ていける視点を持ちながら、家族、本児を支えていく大切な役割を持っているのだと学ぶことができました。(文:相談支援専門員 景山 一優)



よろしくお願いします！～新人職員の紹介～



田村真沙樹

4月からワークセンターフロンティアで働かせていただくことになりました、生活支援員の田村真沙樹です。初めてで慣れないことも多いですが、日々勉強し、成長していけたらと思っております。よろしくお願いします。

はじめまして、4月から放課後等デイサービス、ハートピア出雲ステップに勤務させて頂いている保育士の川上妙子と申します。
早く皆さんの顔とお名前を覚えたいです。見かけたら声をかけてやって下さい。宜しくお願い致します。



川上 妙子



高橋めぐみ

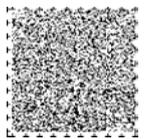
3月から法人本部事務局に勤務しております高橋めぐみと申します。
1日でも早くみなさんの仲間になれるよう、仕事をしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いします。

<苦情の解決対応について> ※令和1年の間に苦情の解決対応は3件でした。

内容	ワークセンターフロンティア利用者が、朝の利用開始時間前に来所しているのに職員から「遅刻しないで！」と言われたように聞こえたことに対して、遅刻になっていない状況なのに職員が「遅刻しないで」と注意するのはおかしくないか。納得がいかないので説明してもらいたい。
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・実際には、利用者本人が利用開始時間ぎりぎりの来所が多く、「廊下を走らない！」という言葉で注意したのが事実であることを伝え、誤解があったことの同意を得た。 ・職員が注意の声掛けをする際には、きちんと理由を伝えて指導をしていくようにする。 ・職員の気分によって対応が違うように相手から感じられることが無いように気を付ける。

内容	生活介護の利用者が、ハートピア出雲デイセンターからの帰宅後に訪問看護による口腔ケアを受けていた際に、口腔内に魚の骨が見つかった。原因を究明してほしい。
今後の対応	<p>聞き取りや現物調査の結果、魚の骨ではなく歯ブラシの毛と判明した。</p> <p>今後は、下記のとおり調理時や食事介助時に注意を怠らず異物のチェックを習慣化することを確認した。</p> <p>①調理担当者は、フライであっても、身をほぐす場面やこしきを使う場面で注意深く調理をする。</p> <p>②食事介助者は、スプーンに載せる際やトロミを加える際に、もしかしたらを考えて介助する。歯ブラシの状態を毎回チェックし、定期的な交換を心掛ける。</p>

内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活介護の利用者に、活動の変更を前もって知らせたい。 2. 皆で私の批評をしないで欲しい。
今後の対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動の変更は前もって知らせる。当日の変更の場合でもきちんと理由を述べて納得してもらおうよう努める。 2. 思い込みの部分が強く、そのような事実は全くなかった。申出人も納得した。



編集後記

◆今年2月に他界されたプロ野球界の名捕手、名監督として名高い野村克也さんが生前テレビ番組で「固定観念は悪、先入観は罪」「その人にどんな可能性があるのかをじっくり見極め、いいところを引き出してやるのが重要」と監督として大切にされている考え方を語ってあられた。実際に成績の伸び悩む多くの選手を「野村再生工場」にて見事生まれ変わらせた。私たちにもたとえ小さなことでも、普段気づいていない可能性が眠っているかもしれない(直接仕事とは関係ない趣味でも)。ポジティブにいけたら！【編集長 米山】